第22号
October 2019

いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

NEWS LETTER

～岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

Index

■ ご挨拶 1

■ トピックス 2～4

□地場産業・企業論／企業研究

□いわて学Ⅰ

□グローカル基礎研修

□ボランティアとリーダーシップ

□地域課題解決プロジェクト：
さんてつ活用推進チーム

□地域課題解決プロジェクト：
西和賀地区活動

□駅前講義

□いわて高等教育コンソーシアム
将来ビジョン

いわて高等教育コンソーシアム詳細
http://www.ihatov-u.jp/

ご挨拶

盛岡大学　学長
高橋　俊和

２０４０年問題の前に

今日の日本の大学教育は、知識の伝達を主としたエリート教育からマスプロ教育を経て、大学進学率が50%を超えるユニバーサル化の時代に突入している。従来の専門教育だけではなく、大学での人間教育が重視されるようになってきた。また一方では、だいぶ前から「2018年問題」として、人口の急減に伴う学生募集の先行きに対する不安の声があがっていた。多くの大学では有効な対策を講じきれないまま今日に至り、定員割れの大学が年々増加している。

これから先、日本人の人口の推移は下降線の一途を辿る。少子化は普遍的な脅威というべきで、どうにも仕方がない。東北は、全国で最も人口減少の激しいエリアである。18歳人口について見ると、2019年を100として、10年後の2030年には全国平均は89%である。岩手県では78%まで減少する。きわめて厳しい数字であるが、直視せざるを得ない。現状のままで推移すると、大学の次の危機の大きな波は2040年に押し寄せる。こうした人口動態を踏まえ、文部科学省はこの数年「2040年グランドデザイン」(中教審)「柴山イニシアティブ」「学校教育法・私立学校法の改正」など、矢継ぎ早に政策を発表してきた。しかし、大学という組織は、他の業種に比して事の対応が迅速ではない。その体質が今、大学を苦しめている。

文部科学省は、大学改革のキーワードとして「教育の質保証」をあげている。この言葉は、単に大学教育の質を高めることを意味しているのではないであろう。「学生の質」を保証すること、つまり質の高い就労者を育成して社会に輩出するのが大学の役割りだということである。学修者本位の教育への転換の狙いはここにある。物事の価値観が大きく変わり、少子高齢化が加速していく中にあって、人間力に優れ、ITなどの情報技術を身に付けた創造力豊かな人材を社会に送り出す。高等教育に対する社会からの評価は、そこに生まれる。

そうだとすれば、大学進学率が全国平均（2018年 54.8%）を大きく下回る岩手県（38.7%）では、どのような対策が考えられるのであろうか。この10年、いわて高等教育コンソーシアムは、地域の活性化と人材育成を目的として様々な取り組みをして成果を挙げてきた。しかし、大学進学率は低迷したままである。

ただ、地域社会の視点で考えれば、一朝一夕には上昇が望めない進学率でも、質の高い人材を育成する方法は別にあるのではないか。その一つは、県外流出の生徒を引き留めることである。2018年の県内の大学に進学した生徒は1,350名、他県の大学に流出した生徒は3,304名である。学部がほとんど競合しない本県の大学は、地域のニーズに合致した各大学の個性や特色を、もっと広く生徒・保護者に理解してもらうことが必要であろう。今は、学生の確保で隣の大学と競争している時代ではない。大学は今まで以上に、「地方創生」の施策に乗り、産と官との連携を強くして、地域の活性化に取り組むことが求められている。いわて高等教育コンソーシアムの担う課題は大きい。

「地場産業・企業論／企業研究」

「地場産業・企業論／企業研究」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手大学及び岩手県立大学が主務校となり実施し、平成28年度からは、地域リーダー育成プログラムのコア科目として開講し今回が４回目の開講となります。

地域企業の現状、可能性、課題、解決策を探ることを狙いとし、５月８日（水）から７月３日（水）まで15回開講しました。（履修登録者５名・単位修得者４名。参加学生：岩手県立大学）。

地域企業を取り巻く外部環境を「経済」「産業」「政策」「中小企業」に分けて、それぞれの分野から外部講師を招いて解説していただいたうえで、調査分析手法として「SWOT分析」について学びました。

さらに、受講生の意向を踏まえて調査対象業界と調査対象企業を抽出して調査対象企業についての訪問前の事前学習を行い、準備後には、企業現場を訪問し業務内容を調査しています。

グループワークとして、地域企業の問題点や課題の分析を行ったうえで、プレゼンテーションを行っております。

なお、授業は主にアイーナキャンパスで、水曜日に行っております。

参加した学生からは、「実践的な学びができた」「岩手の企業の可能性を考えられたし、実感ができた」など、貴重な経験を得るところがたくさんあったという意見が寄せられました。

回	日程	テーマ・内容	講　師	会　場
1・2	5/8(水)	○岩手県の産業の動向について	岩手経済研究所 地域経済部部長　中野　智 氏	アイーナ (学習室1)
		○岩手県の中小企業の現状	岩手県中小企業家 同友会事務局長　菊田　哲 氏	
3・4	5/15(水)	○日本経済及び岩手県経済について	日本銀行盛岡事務所 所長　片桐 宗雄 氏	アイーナ (学習室1)
		○岩手県の産業政策について	岩手県商工労働観光部 商工企画室企画課長　似内 憲一 氏	
5・6	5/22(水)	○調査分析手法SWOT ○「SWOT分析」の学習	岩手県立大学　近藤 信一	アイーナ (学習室1)
7・8	5/29(水)	○調査対象企業の事前学習	岩手県立大学　近藤 信一	アイーナ (学習室1)
9～11	6/5(水)	○企業訪問：和同産業㈱ 「企業現場調査」	和同産業㈱ 取締役　矢内 伸幸 氏	和同産業㈱
12・13	6/12(水)	○グループワーク 「地元企業の抱える課題と解決策について」	岩手大学…今井／県立大学…近藤	アイーナ (学習室1)
14・15	7/3(水)	○企業訪問プレゼンテーション 「地域企業の抱える課題について」(和同産業㈱)	岩手大学…今井／県立大学…近藤	和同産業㈱

企業訪問先「和同産業株式会社」での現場調査

企業訪問先「和同産業株式会社」でのプレゼンテーション

「いわて学Ⅰ」

岩手県立大学で行われた授業の様子
（岩手県の環境政策）

「いわて学Ⅰ」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講しています（10年目）。令和元年度前期は、八幡平地域の自然環境等の地域特性に焦点をあて、『八幡平から知るいわて』をテーマとして、６月８日（土）から６月16日（日）までの間で集中講義を開催しました。

岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学の３校から履修登録があり、履修登録者数は20名、うち単位取得者は19名でした。

講義については、前半で岩手県全体の自然等について、森林総合研究所の研究者、岩手県の職員等による講義、後半では、岩手県職員、商工会等の講師陣により松尾鉱山の鉱毒問題、地熱開発、安比観光開発等の八幡平地域の現状について理解を深めたのち、バスを使用し、現地講義を行いました。最終日はSDGsのカードゲームを実施するとともに持続可能な地域づくりについてグループワークを行いました。短期集中ではありましたが、学生が岩手を考えるきっかけが得られたのではないかと考えています。

グローカル基礎研修「平泉の世界」

本講義は平泉を広い視野から捉えることを目的としており、本年度は８月16日（金）から19日（月）に実施しました。受講者は12名（岩手大学生11名、盛岡大学生１名）でした。最初の２日間は基礎知識を得るため、「歴史学」「考古学」「民俗学」の観点から平泉について学びました。３日目は３グループに分かれ、中尊寺・毛越寺・柳之御所について、これまでの学習成果をふまえて文献調査と議論を行い、現地でのプレゼンテーションの準備に取り組みました。

グループワークの様子

最終日には伊藤博幸平泉文化研究センター客員教授の案内のもと、現地見学を行い、見学先各所で、グループワークの調査内容について発表しました。受講者全員が、講義・グループワーク・現地見学及びプレゼンテーションに熱心に取り組み、とても充実した内容の講義となりました。

中尊寺境内での現地講義

「ボランティアとリーダーシップ」

コミュニケーショントレーニングの様子

ベルガーディア鯨山でのボランティア実習

地域リーダー育成プログラム必修科目の「ボランティアとリーダーシップ」はボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした特別講義です。今年度の履修学生は岩手大学22名、岩手県立大学1名、盛岡大学2名の計25名となりました。

初日、岩手県立大学アイーナキャンパスを会場に歩健学研究室西村千尋先生による心を解きほぐす（アイスブレイク）「コミュニケーショントレーニング」が行われました。2日目には四天王寺大学 吉田祐一郎先生による災害ボランティアの意義を学ぶ「ボランティア」講義、岩手大学 後藤尚人先生によるリーダーシップを様々な観点から捉える「リーダーシップ」講義を学び知識を深めました。

3日目からは陸中海岸青少年の家で2泊3日の合宿を行いました。

今年度の「ボランティア実習」は、ベルガーディア鯨山敷地内において、草刈り、薪割り、図書館の清掃などを行いました。代表の佐々木 格さんにはベルガーディア鯨山敷地内に設置している「風の電話」への想い、グリーフへのよりそい、今を大切に生きるという事など、丁寧に学生へお話いただき、とても貴重な実習となりました。参加学生の今後の成長につながることを期待します。

地域課題解決プロジェクト さんてつ活用推進チーム

釜石現地視察にて

いわて高等教育コンソーシアム地域課題解決プロジェクトの一環として平成28年度より活動を行っているさんてつ活用推進チームは、今年度、3月に開通した宮古－釜石間のうち、大槌駅－釜石駅間の魅力再発見MAPを作成しました。

今回の魅力再発見MAPは、2019年のワールドカップをきっかけに釜石に外国からのお客様が増えることを想定し、従来の日本語版に加え、英語版、中国版も作成しました。中国語版の作成にあたっては、中国からの留学生にチームに加わってもらい、一緒に現地視察を行い、原稿を作成してもらいました。

また、11月には、宮古－鵜住居間の震災学習列車への乗車を中心としたツアーを予定しています。今後も「さんてつ活用推進チーム」の活動にご期待ください。

さんてつ魅力再発見MAP

㈱三陸鉄道宮古駅本社にて

地域課題解決プロジェクト 西和賀地区活動

地域の中核的人材育成という目標に立ち戻り、昨年度から活動している3・4年生が主導的立場に立ち、今年から参加した2年生と活動を推進しています。活動内容としては昨年度に引き続き西和賀地区の魅力発信を目指した動画撮影を進めており、6月に第一回の撮影を行い、そこでの結果をまとめながら打合せを重ね、8月には第二回の撮影を行いました。バラエティー番組形式で動画を編集する等、工夫をこらしながら西和賀地区の魅力を発信するための活動を継続しています。引き続き動画の編集とさらなる撮影を進めていく予定です。

新しいメンバーとともに現地調査

自然の中での遊びをテーマに動画撮影

大学での学びをちょっと覗いてみませんか？ ～ 駅前講義 ～

8月6日（火）、岩手県立大学アイーナキャンパス（盛岡駅西口）において、県内高校生の進学意識の向上を目的とする「駅前講義」を開催しました。

講義では、「100年後の未来から今を考える」と題して、岩手県立大学齋藤俊明特任教授から、未来を意識しながら、そのために大学でどのような力を身に着けるべきか等について、人口減少やAI社会の到来を交えてお話がありました。県内の高校生等29名が参加し、「今から先のことを考え、大学について考えるいい機会となった」「自分のしたいことやなりたいものを今からよく考えて、そのために必要な学習や生活をしていきたい」等の感想が寄せられました。

また、講義の他に、大学進学のPRや県内各大学の紹介展示、大学生による相談対応も実施しました。参加者は各大学の大学案内や大学生活の展示を熱心に見学していました。

齋藤特任教授による講義

大学生による相談対応

展示会場の様子

いわて高等教育コンソーシアム：将来ビジョン

いわて高等教育コンソーシアムは、地域の中核を担う人材の育成、県内大学進学率の向上、地域社会の活性化を目的として平成20年に設立され、教育研究環境の基盤整備、教育力の向上、知の拠点形成に取り組むとともに、東日本大震災発災後は被災地の復興にも注力してまいりました。

平成30年でコンソーシアム設立後10年を迎えることとなり、また東日本大震災発災後8年が経過し、今後は、被災地の復興も自律的段階に入っていくことが予想されることから、これまでの10年間の活動を総括するとともに、これからのいわて高等教育コンソーシアムが何を目指しどのような活動を行っていくのかについて検討し、『いわて高等教育コンソーシアムの将来ビジョン』として策定いたしました。

●以下、『いわて高等教育コンソーシアム将来ビジョン』から抜粋

【前提条件】

＊**《組織の必要性》**

「人類の未来」と「社会の発展」に貢献するという大学の使命のもとで、人類・社会が抱える課題を共有し、解決に向けて努力するとともに、大学を取り巻く環境（18歳人口の減少、グローバル化に伴う教育の国際通用性や質保証など）が厳しさを増すと想定される状況下において、単独では対応できない課題等に対し、連携によるスケールメリットを活かした取り組みを行うための組織として、いわて高等教育コンソーシアムが必要である。

＊**《連携原則》**

連携校それぞれの建学の精神や理念を尊重しつつ、コンソーシアムの一員との認識を持ち、互いに協力する。

＊**《連携の精神》**

岩手県は人や地域などとの「つながり」が全国より高く、助け合いや協力により幾度も大災害を乗り越えてきており、こうした岩手県の風土に養われた「結」の精神を連携に活かす。

【コンソーシアムの理念】

岩手県にある高等教育機関が連携組織としてコンソーシアムを形成し、地域の次代を担い、地域の創生に寄与する人材を育成する。

【将来展望】

＊少子高齢化が進み、地方自治体の存続が危ぶまれ、経済規模が縮小してゆく中で、産学官が一体となって地域の課題解決に取り組みながら、コンパクトでインテリジェントな地域、スマートで強靭な地域を創生する。

＊そのために、復興支援の実践で培われた連携校の叡知と創意を集結して、柔軟な思考と発想力を供え、自律的に行動し、社会を牽引できる次代を担う人材の育成を目指す。

今後の行事予定 令和元年度	事業内容	開催日	開催場所	対　象
	令和元年度 高大連携「ウィンターセッション」	令和元年 12月25日（水） ～27日（金）	12/25・26…各大学 12/27…盛岡市民文化ホール（マリオス）	岩手県内の高校生
	令和元年度 いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 「大学におけるキャリア教育 ～これまでの10年 これからの10年～」	令和2年 2月15日（土）	渡り温泉　ホテルさつき	いわて高等教育コンソーシアム関係者、一般市民

発行連絡先
いわて高等教育コンソーシアム事務局
（岩手大学総務部総務広報課内）
〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8
TEL.019-621-6855　FAX.019-621-6014
[E-mail]ihatov5@iwate-u.ac.jp　[URL]http://www.ihatov-u.jp/

構成校
岩手大学
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・岩手県立大学宮古短期大学部
岩手医科大学
富士大学
盛岡大学・盛岡大学短期大学部
放送大学岩手学習センター
一関工業高等専門学校

令和元年10月1日発行